

漁港の荷さばき所における作業環境改善のための研究

水産土木工学部 漁港施設研究室 佐伯公康, 坪田幸雄

荷さばき所の例



漁港の荷さばき所で行われる作業の内容を分析し、作業の効率、作業者の健康(腰への負担や寒さ)および魚の品質保持に適した施設づくりの検討を行っています。搬入や仕分けの方法は各地でまちまちですが、主に漁業種類によって決まります。そのため各地の現状を調査したうえで、荷さばき所の位置や形状などのあるべき姿について、漁業種類ごとに検討しています。

漁獲物の搬入方法

① 船倉からタモ網で(まき網)



③ 粗仕分けされ棒などで(沿岸の底曳き)



② 発泡スチロール詰めで(沖合の底曳き)



④ 一匹ごと(はえなわ漁)



荷さばき所での仕分け口数と所要時間(銚子漁港)

	陸揚げ量 (kg)	仕分けられた口数	所要時間 (仕分け+入札)
小型底曳き A丸	421	36	31分
小型底曳き B丸	679	42	9分
陸送(波崎漁港)C丸	330	47	22分
大型底曳き D丸	2,149	86	43分
大型底曳き E丸	1,502	90	43分
大型底曳き F丸	3,210	133	41分

※銚子漁港 2003年12月9、10日の実績から6重分を抜粋。

搬入、仕分け方法(全国アンケート結果)

★漁船から荷さばき所への搬入方法(複数回答) 母回答数 68

	回答率(%)	通常行われる	たまに	行っていない
岸壁の漁船からトラック経由		24	21	56
ベルトコンベアー経由	28	9	63	
フォークリフト経由	47	24	29	
人手で運搬	65	16	19	
無動力車両(リアカー等)	34	15	51	
別の漁港から陸送	44	19	37	

★仕分け作業(一匹ごとの仕分け)の方法(複数回答) 母回答数 57

	回答率(%)	通常行われる	たまに	行っていない
人手で、床の高さで(しか置き)	49	16	35	
人手で、床の高さで(スコンやトロ箱の上)	37	21	42	
人手で、作業台や選別台を使って	54	14	32	
人手で、ベルトコンベアーを併用して	32	4	65	
自動選別機で	18	4	79	

仕分け機械と人の配置(長崎漁港)

